

平成30年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	H30 到達度	自己 評価	考察	学校関係者評価委員から
安心安全な学校	生徒一人ひとりにとって安心して学ぶことができる人的、物的環境を整える。	「学校生活を楽しんでいる」と答える生徒90%以上	92%	A	目標は達成できた。しかし、楽しくないと感じている生徒が8%いることを意識し、今まで以上に安心安全な学校生活を送ることができるよう個々の生徒の支援を図っていきたい。	「学校生活を楽しんでいる」と答えている生徒が、90%以上いることは、大変うれしいことである。この90%以上の生徒が、さらに目標をもって成長して欲しいと思うとともに、このまま継続させて欲しいと願っている。 一方で不登校の生徒が多いことが残念である。8%の生徒をどのように見守り、支援をしていくか3者(生徒・教師・保護者)の連携をとることや教師と生徒のコミュニケーションを図ることなどを通して、個々に対応した支援を、より進めていく必要があると感じている。
		「先生は、あなたのことを理解してくれていますか」と答える生徒90%以上	85%	B	昨年度より「生活の悩みアンケート」として、毎月はじめに全校生徒にアンケートをとった。それにより、気になる記述があれば、すぐに職員が対応している。しかし、多少マンネリ感もあり、成果が薄れてきている。	
		「悩み事を相談できる先生や友達がいいますか」と答える生徒90%以上	88%	B	目標には到達できなかったが、比較的高い数字を維持している。生活面での支援には配慮をしているが、学習面では不十分であると感じている。今後も、生徒や保護者のアンケートを元に、個々の支援を進めていきたい。	
確かな学力の育成	授業改善を常に意識し、生徒が活動しやすい授業構想を練り、生徒にとって「わかる授業」を実践する。	「授業がわかる」と答える生徒90%以上	81%	C	多くの職員が、授業改善を意識し、確実に取り組むことができています。しかし、個の学力差の広がり、学年が上がるにつれて大きくなっているため、さらに授業改善を図りながら進めていきたい。	「授業がわかる」と答えている生徒が予想よりも多かった。日ごろの教科別研修や取り組みの共通理解をし、連携を取りながら進めている結果だと思う。今後も、さらに小中での連携を深めるなど、学府の共通課題として取り組み、今後、さらに主体性が高まるような指導を期待しています。
	授業の方法を改善し、自分で調べたり、仲間とともに考えたりするなどの活動を取り入れる。	「進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答える生徒80%以上	70%	C	目標値に対して、かなり低い到達度である。新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、さらなる研究を進めていく必要がある。	
主体的に考え、ともに学び、実行する生徒の育成	学校行事や委員会活動、部活動など、生徒が主体的に取り組むと共に、個を育て一人一人の向上につなげる。	「生徒会や学級の係活動・部活動に積極的に取り組んでいますか」と答える生徒90%以上	93%	A	熱心に生徒会活動、部活動に取り組んでいる姿が見受けられる。生徒会においても、自主的な活動が見られるようになってきているので、さらに意識が高揚するよう支えていきたい。	一人一人の生徒が、行事や部活動、係活動に目標をもち、積極的に取り組む姿勢は、素晴らしいと思う。また、実際にボランティア活動のいろいろな場面の中で、積極的に取り組んでいる姿も見ることができた。 地域での様子で、自転車の乗り方が気になることがある。左側通行や一旦停止など基本的な交通ルールの指導を徹底していただきたい。
		「互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答える生徒90%以上	84%	C	目標数値を下回っている。一部の生徒に「これくらいは」という思いがある。生徒同士で注意し合えるような厳しきも、温かい人間関係づくりを進めていきたい。	
小中一貫教育の推進	地球の様々な課題を自分ごととしてとらえ、足下から行動するとともに、周りの人々とのプラスの関わり合いを持つことで、自己存在感、自己有用感を高める。	「中学生として小学生や幼稚園児にやさしくできた」と答える生徒100%	96%	B	学府大交流会(6月)を通して、小学生と接した結果や幼稚園や小学校でのボランティア活動が反映されていると考えられる。次年度も、本年度の内容を継続して進めていきたい。	兄弟が少ない核家族の今、幼小中との交流を大切にし、思いやりの心や人との接し方などを学んで成長して欲しいと願っている。今後も、本年度の内容や活動をもとに継続してほしい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

・今年度は、「対話的な学び」を意識した授業改善に取り組んできた。その目的は、学力向上だけではなく、「対話的な学び」による人間関係づくりや主体的な行動をねらっている。その取り組みの成果として「学校生活を楽しんでいる」や「諸活動に積極的に取り組んでいる」などの数値として表れている。今後も、学校生活のすべての基盤が授業であることを再認識し、授業改善に取り組んでいきたい。

・各項目においての評価は、おおむね高い数値であった。しかし、高い評価をつけられない個々の生徒にしっかりと目を向け、どのように見守り、支援をしていくかを保護者・地域と協力しながら取り組んでいく必要がある。

・保幼こ小中一貫教育の推進、コミュニティスクールの推進のため、交流会や学府カレンダーの作成などにも取り組んできた。学校公開日・竜中生を育む会を設定し、保護者や地域を巻き込んだ活動を積極的に推進してきた。今後も学校や生徒の様子を外から見るだけでなく、生徒と直に触れ合って活動をとることで、さらに「安心安全な学校」を作り出せると考える。